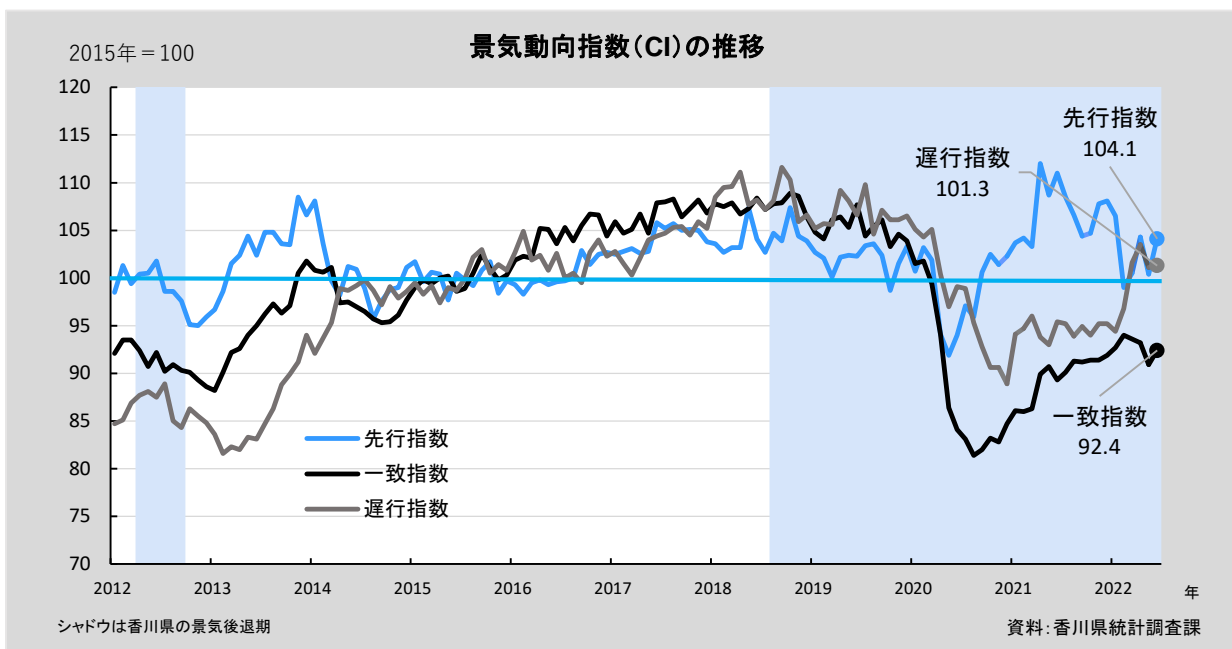


概況	景気は、一部に供給制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している。
個人消費	緩やかに持ち直している。
住宅投資	弱含んでいる。
公共投資	減少している。
生産活動	横ばいで推移している。
雇用情勢	緩やかに持ち直している。
貿易	輸出、輸入ともに増加している。
観光	持ち直している。

景気動向指数(かがわCI) 一致指数 4カ月ぶり上昇



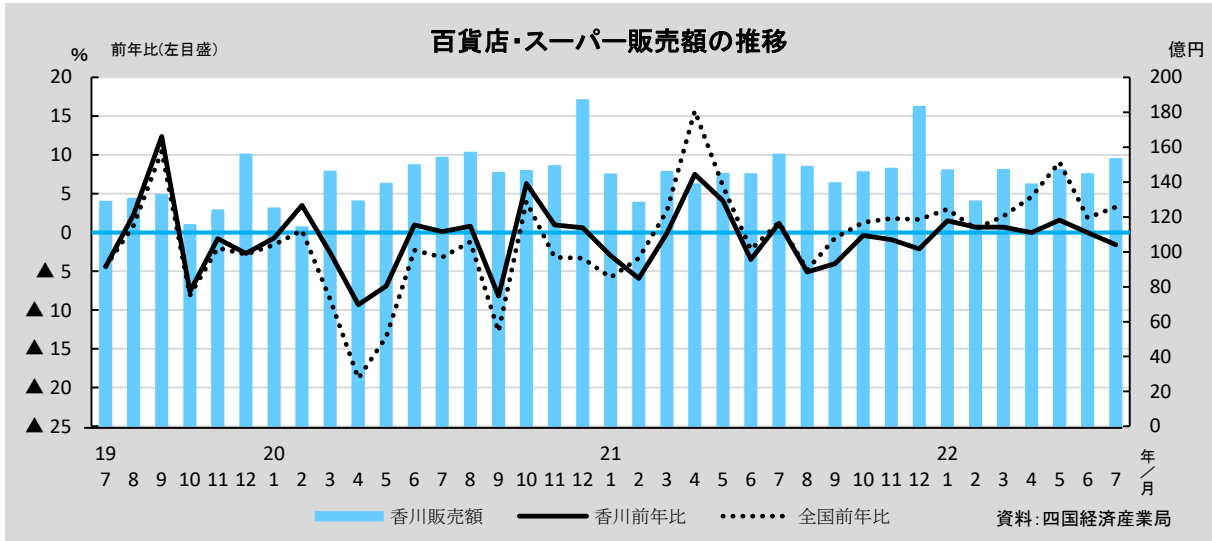
景気の現状をみると、6月のCI一致指数は92.4（前月比+1.5ポイント）と4カ月ぶりに上昇。CI先行指数は104.1（同+3.7ポイント）と2カ月ぶりに上昇。CI遅行指数は101.3（同+0.2ポイント）と2カ月ぶりに上昇。

景気の現状を示す一致系列の個別指標では、有効求人倍率、建築着工床面積、所定外労働時間指数などが上昇に寄与したことにより、前月から1.5ポイントの上昇となった。

	先行系列	寄与度	一致系列	寄与度	遅行系列	寄与度
採用 景気 指標	1 新規求人数	1.22	1 雇用保険受給者実人員	▲ 0.72	1 常用雇用指数	0.88
	2 乗用車新車登録台数	0.64	2 有効求人倍率	1.44	2 有効求職者数	▲ 0.47
	3 鉱工業在庫率指数	▲ 0.50	3 所定外労働時間指数	0.29	3 消費者物価指数	▲ 0.43
	4 生産財生産指数	▲ 0.09	4 鉱工業生産指数	0.28	4 家計消費支出	▲ 1.69
	5 新設住宅着工戸数	1.49	5 鉱工業出荷指数	▲ 0.23	5 鉱工業在庫指数	0.81
	6 金融機関貸出残高	1.52	6 建築着工床面積	0.64	6 法人事業税調定額	1.27
	7 消費者態度指数	▲ 0.38	7 百貨店・スーパー既存店販売額	▲ 0.22	7 第3次産業活動指数	0.09

●百貨店・スーパー販売額

2 カ月連続減少 ↓

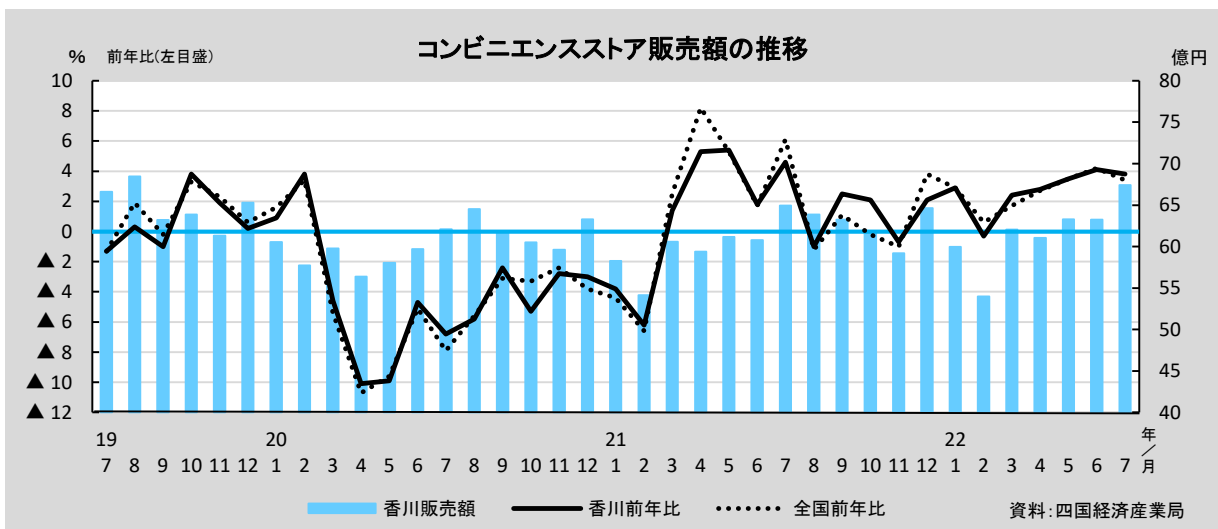


2022/7月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	103,980	60,914	1,149,376	1,963	6,191	27,617	181,435	492	1,531,968
前年同月比(%)	0.3	2.3	1.2	1.9	▲22.5	0.2	▲17.6	▲12.3	▲1.6

7月の百貨店・スーパー全店(84店)の販売額は153.2億円で、前年同月比▲1.6%と2カ月連続で減少した。「その他の商品」は前年高額品が伸びた反動減で前年同月比▲17.6%、「家庭用電気機械器具」は同▲22.5%と振るわなかった。一方、「飲食料品」は感染者数の急激な拡大で内食傾向が高まり同+1.2%と増加した。

●コンビニエンスストア販売額

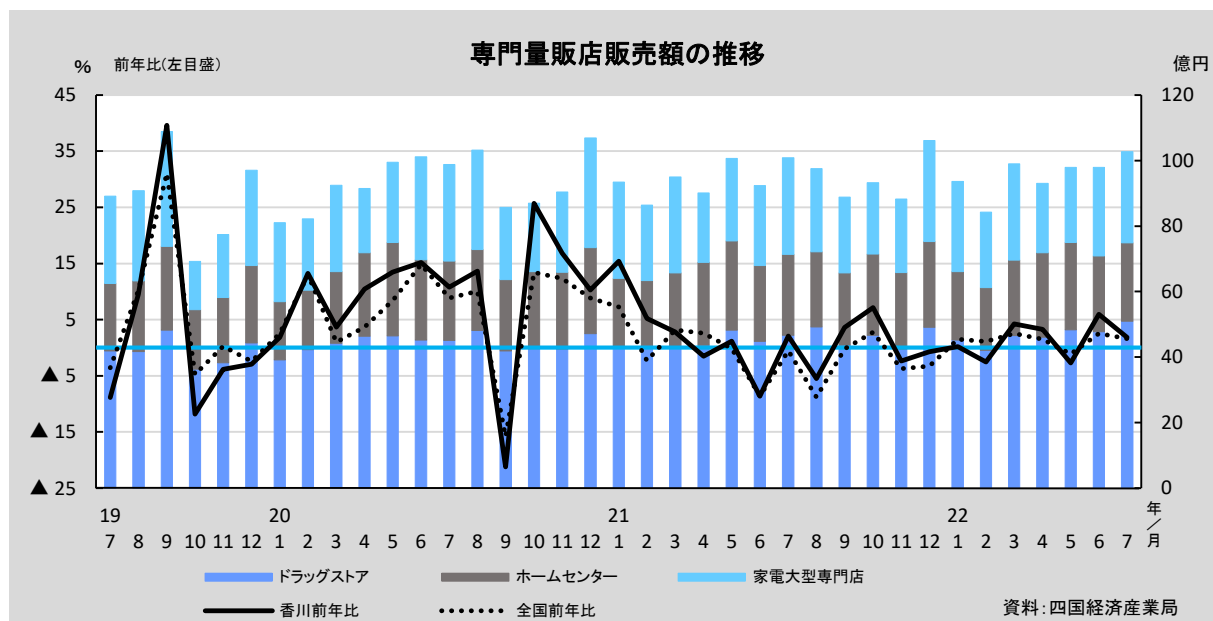
5 カ月連続増加 ↑



7月のコンビニエンスストア全店(407店)の販売額は67.4億円で、前年同月比+3.8%となった。客数は減少したものの、気温高で飲料やアイスクリームなどの季節商品に動きがみられたことなどから、5カ月連続の増加となった。

● 専門量販店販売額

2 カ月連続増加

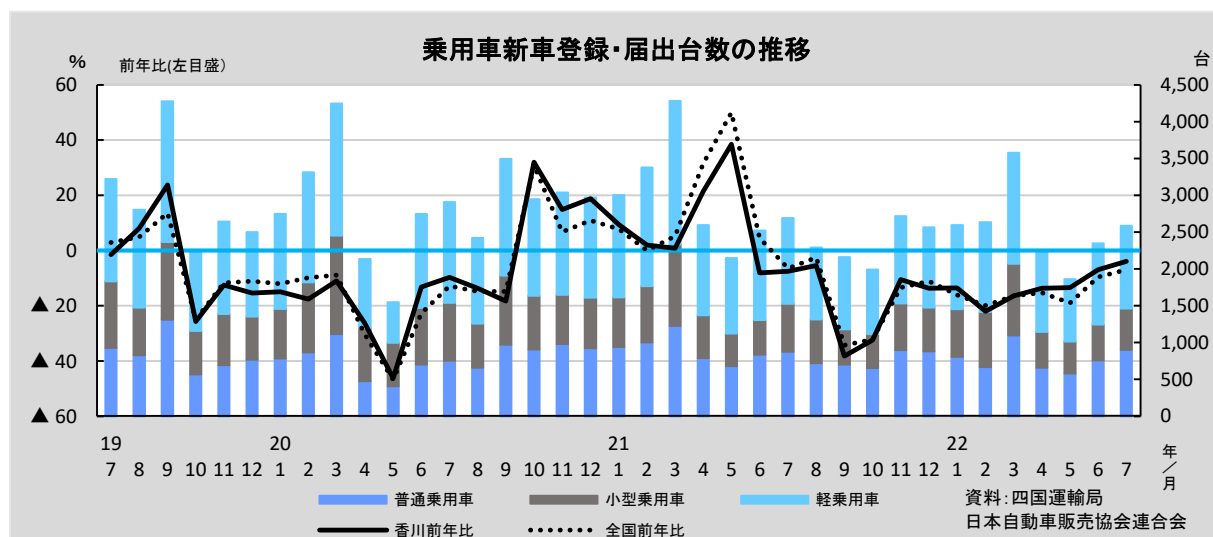


7月の専門量販店全店（209店）の販売額は102.7億円で、前年同月比+1.8%と2カ月連続で増加した。

業態別にみると、エアコンやテレビの動きが悪く、**家電大型専門店**（29店）の販売額は27.9億円で前年同月比▲5.6%、**ドラッグストア**（134店）は、コロナ感染の状況の悪化に伴い、衛生用品のほか抗原検査キットが伸張し、販売額は50.9億円で同+9.2%となった。**ホームセンター**（46店）の販売額は、入店客数が減少しDIY用具や季節商品が振るわず、23.9億円で同▲3.2%となった。

● 乗用車新車販売台数

14 カ月連続減少

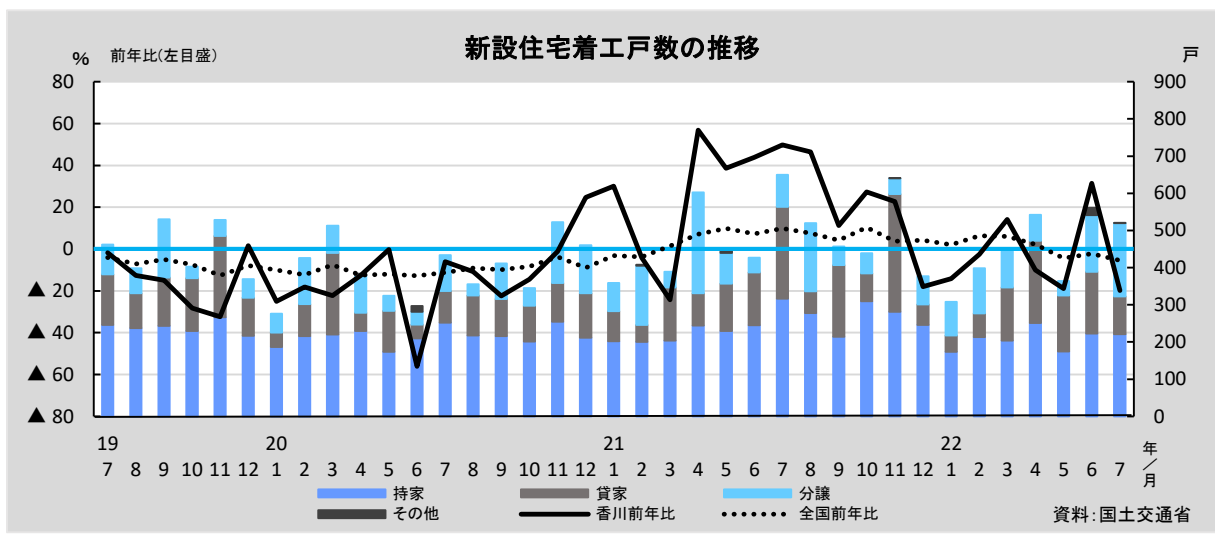


7月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は2,585台で、世界的な半導体や部品不足が解消されず供給遅れが続き、前年同月比▲3.9%と14カ月連続で減少した。

車種別にみると、普通乗用車で前年同月比+3.2%、小型乗用車で同▲14.7%、軽乗用車で同▲3.2%となった。

住宅投資 弱含んでいる

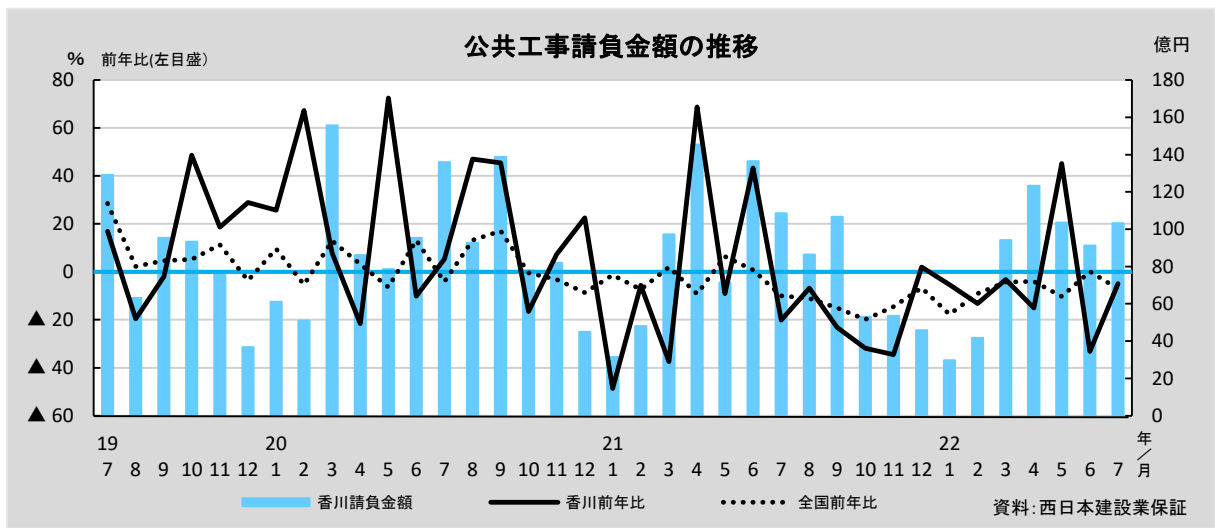
●新設住宅着工 2カ月ぶり減少 ↓



7月の新設住宅着工戸数は521戸で、前年同月比▲19.8%と2カ月ぶりに減少した。利用関係別にみると、持家で前年同月比▲30.3%、貸家で同▲58.7%、分譲住宅で同+129.1%となった。

公共投資 減少している

●公共工事請負金額 2カ月連続減少 ↓



7月の公共工事請負金額103.2億円で、前年同月比▲4.9%と2カ月連続で減少した。発注者別にみると、国・独立行政法人等で前年同月比▲57.1%、県で同▲7.8%、市町で同+29.9%となった。

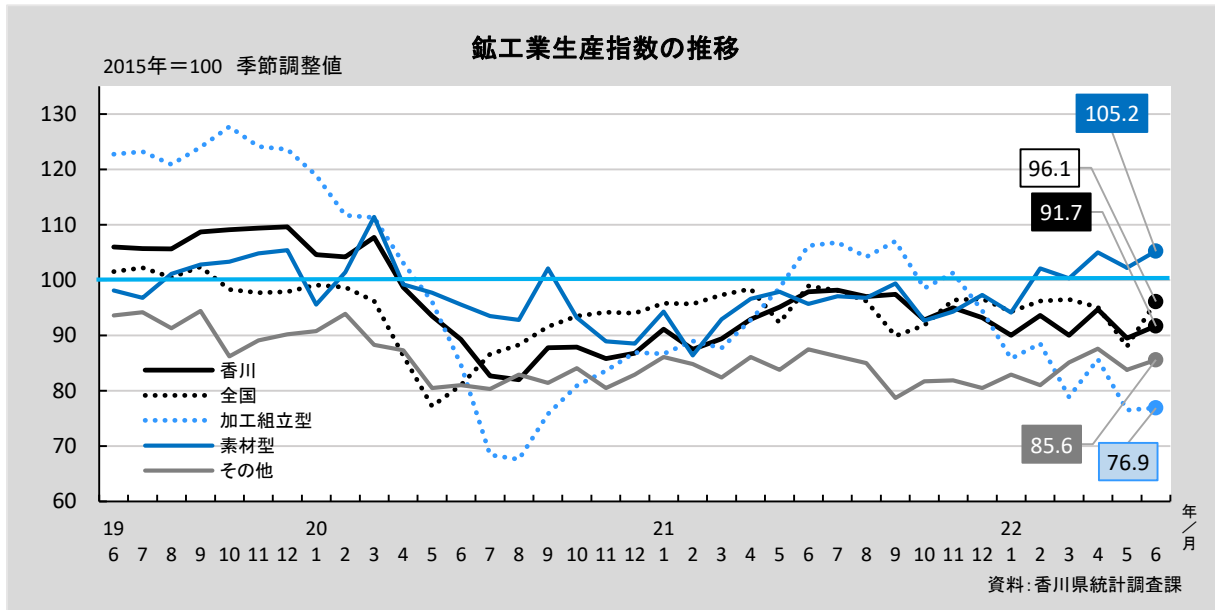
2022.4月～7月の累計では前年同期比8.8%減少している。

生産活動

横ばいで推移している

● 鉱工業生産指数

2カ月ぶり上昇 ↑



6月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は91.7（前月89.5）となり、2カ月ぶりに上昇した。

業種別では、素材型の化学・石油石炭製品工業（医薬品など）は前月比+13.2%、加工組立型の汎用・生産用機械工業（建設用クレーンなど）は同+18.7%と上昇した。

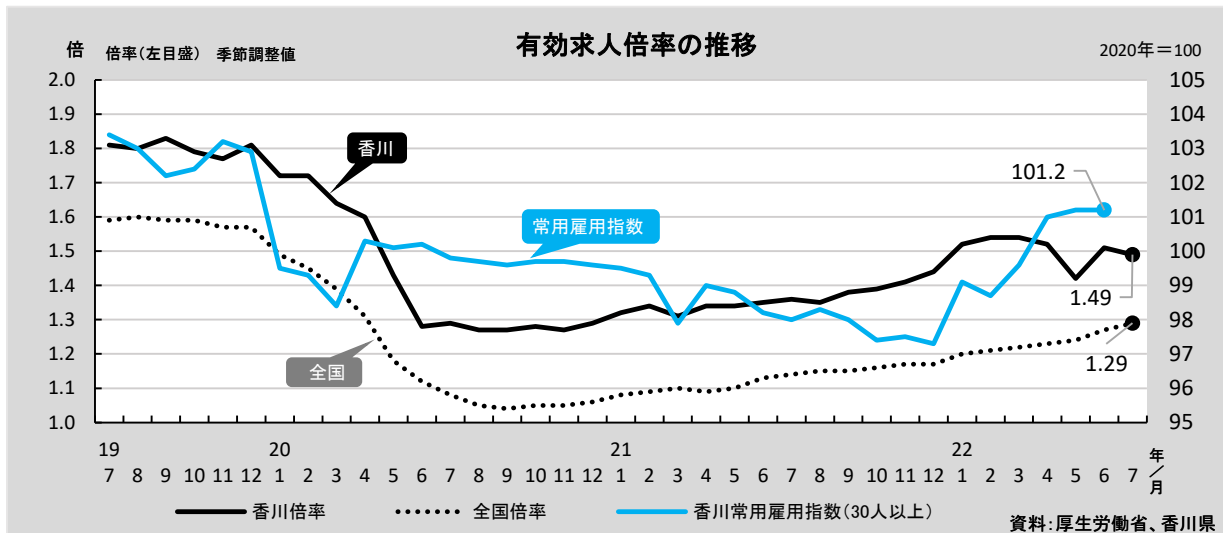
一方、加工組立型の電気機械工業（開閉制御装置など）は同▲13.7%と低下した。

雇用情勢

緩やかに持ち直している

● 有効求人倍率

2カ月ぶり減少 ↓



7月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.49倍（全国16位）と前月より0.02ポイント低下した。

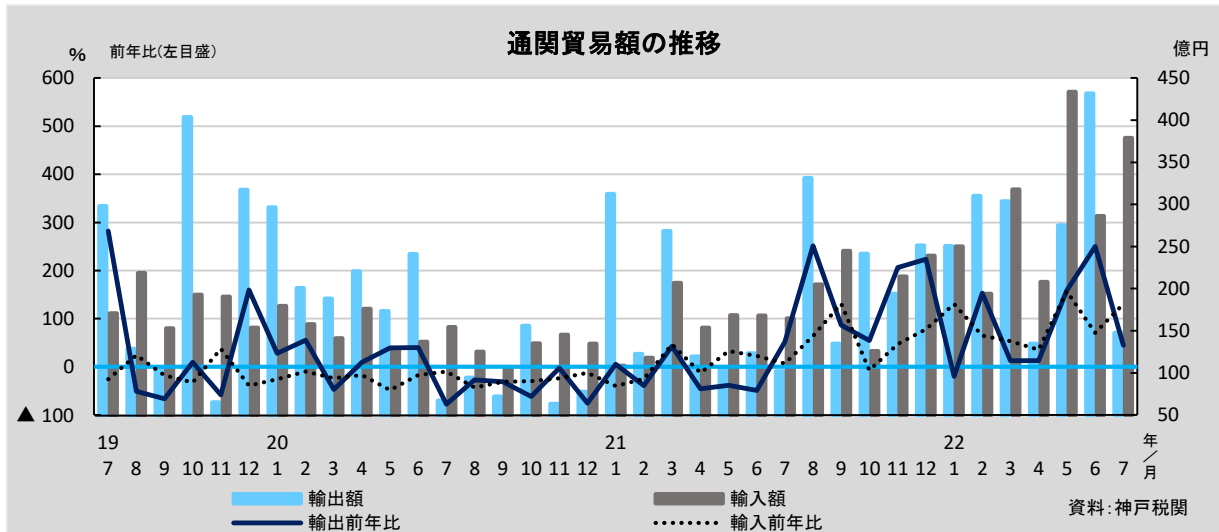
新規求人（原数値：前年同月比）は、電気・ガス・熱供給・水道業、農・林・漁業、情報通信業、複合サービス事業等で増加し、全体で+9.2%と16カ月連続で増加した。

6月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、101.2となり、前年同月比は4カ月連続で増加した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業	1.93
事務的職業	0.57
販売の職業	2.28
サービスの職業	3.14
生産工程の職業	2.49
輸送・機械運転の職業	2.18
建設・探掘の職業	7.00
運搬・清掃・包装等の職業	1.07

貿易

輸出、輸入ともに増加している



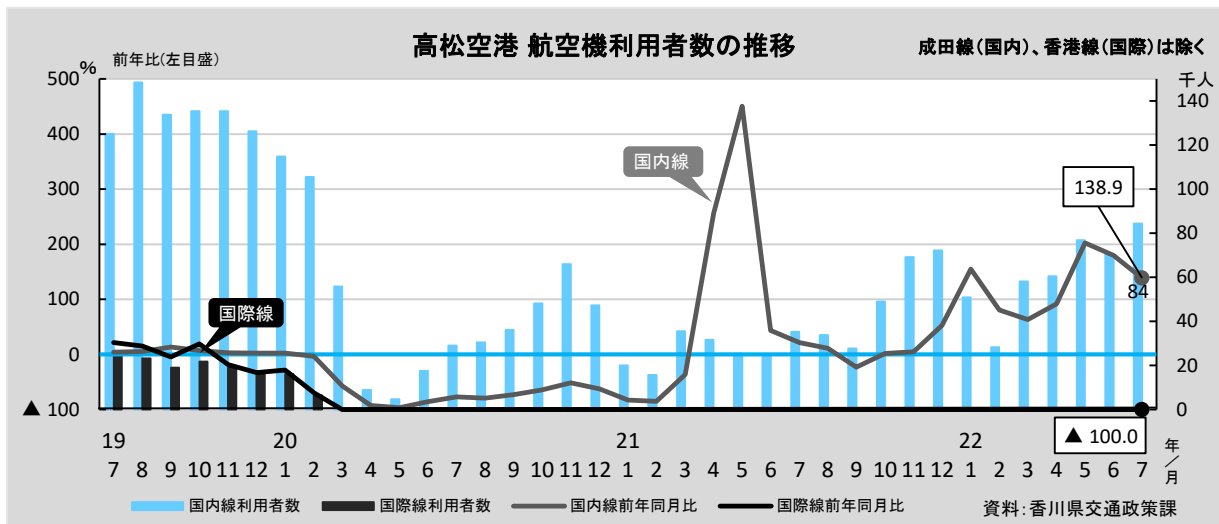
7月の輸出額は前年同月比+44.7%の147.7億円、輸入額は同+130.4%の378.9億円となり、差し引き231.2億円の入超となっている。

輸出は、石油製品輸出額が前年同月比2.1倍の75億円となった。輸入は、石炭輸入額が前年同月比3.6倍の176億円となった。

交通

国内線は10カ月連続増加、国際線は29カ月連続全面運休

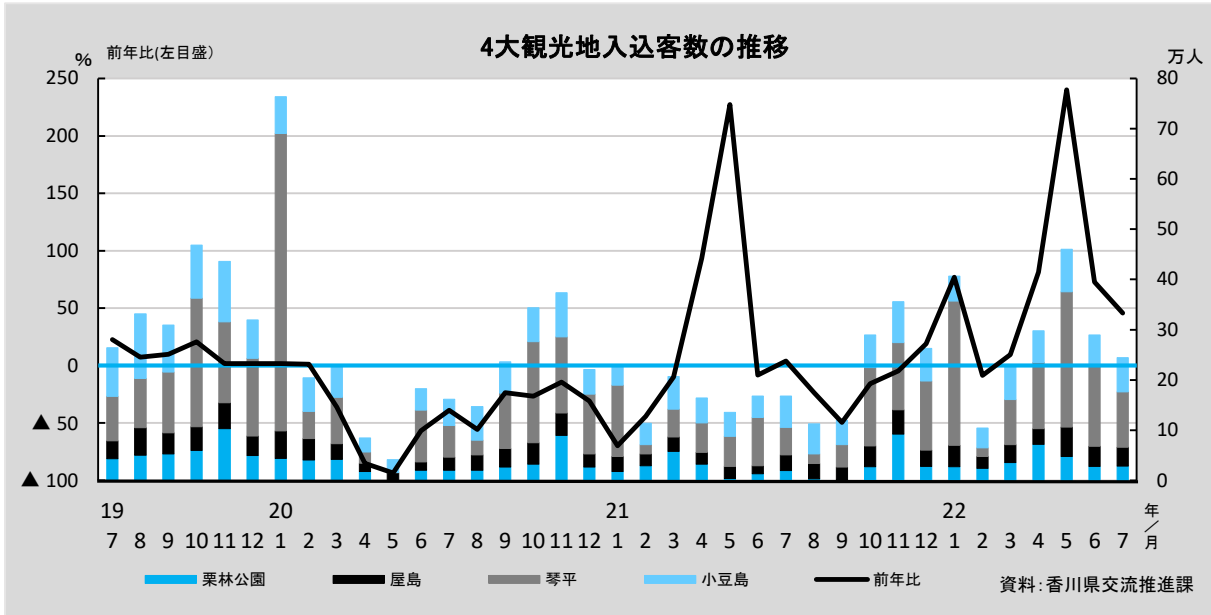
● 高松空港旅客輸送実績



7月の航空機利用者数は、国内線(羽田・那覇線)が84,344人(前年同月比+138.9%)となり、10カ月連続で増加した。羽田線は79,943人(同+127.2%)、那覇線は4,401人(同+3829.5%)となった。コロナ禍前の2019年同月比では▲32.6%となった。

国際線(ソウル・上海・台北線)は新型コロナウイルスの影響により29カ月連続の全面運休となった。

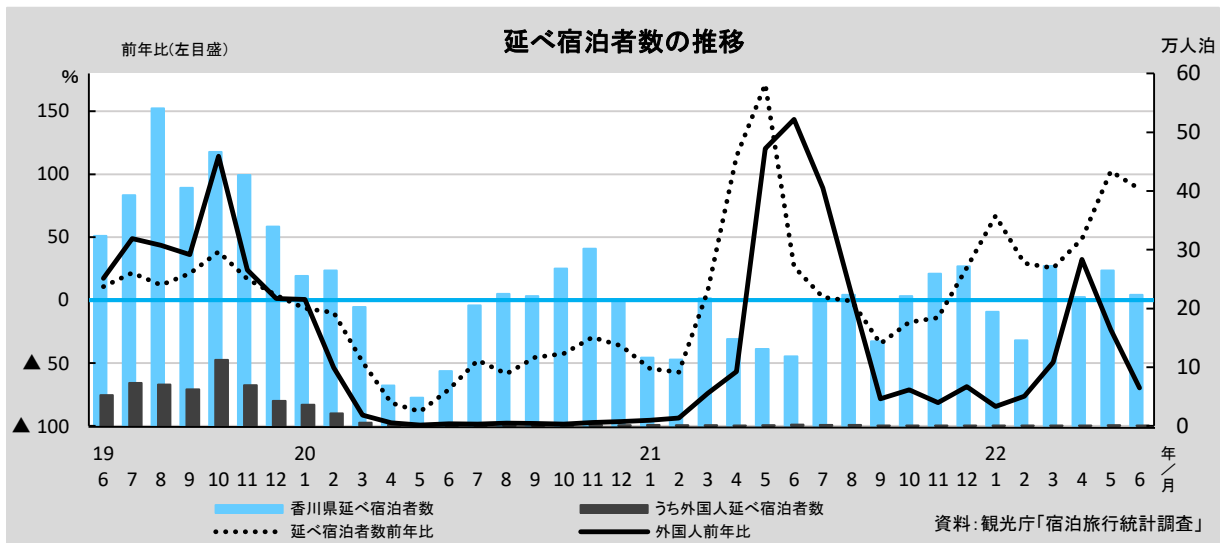
●主要観光地入込客数



観光地入込客数		栗林公園	屋島	琴平	小豆島	合計					
7月(人)	前年同月比	28,256	44.5%	37,907	21.5%	110,000	100.0%	68,341	10.0%	244,504	45.6%
1~7月累計(人)		262,624	50.5%	269,315	53.3%	1,067,000	119.5%	430,511	23.3%	2,029,450	71.2%

7月の主要観光地の入込客数は、前年同月比+45.6%と5カ月連続で増加した。栗林公園は同+44.5%、琴平は同+100.0%となり、4カ所全てがプラスとなった。1~7月の累計では前年比+71.2%となった。

●延べ宿泊者数



6月の延べ宿泊者数は223,110人で、前年同月比+88.5%と7カ月連続で増加した。コロナ禍前の2019年同月比では▲31.0%となった。うち、外国人延べ宿泊者数は640人となり、前年同月比▲69.8%と2カ月連続で減少した。2019年同月比では▲98.8%となった。